

The background features a sunburst pattern of thin white lines radiating from the top center. Below this, a stylized world map is visible, rendered in a light tan color. The map is partially obscured by several vertical, semi-transparent rectangular bars that create a sense of depth and movement. The overall color palette is warm, consisting of various shades of yellow, orange, and gold.

ADVANTEST®

第71期 中間報告書

(2012年4月1日▶2012年9月30日)



**コア事業の競争力向上に
努めるとともに、
新規事業の拡大にも
取り組んでまいります。**

代表取締役兼執行役員社長(CEO)

松野晴夫

株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

アドバンテスグループの2012年度上半期(2012年4月1日から2012年9月30日まで)における事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当期の世界経済は、南欧諸国の債務問題に起因した欧州経済の停滞が長期化し、またこれまで世界経済の支え役を担ってきた中国経済に減速感が生じるなど、景気の先行きに対する懸念を一層深める要素が相次ぐ中で推移しました。

半導体関連市場においては、これら世界的な経済成長の鈍化に伴う消費者需要の伸び悩みが、民生品向けを中心に影を落としています。なかでも半導体の市場動向に大きな影響を及ぼすパソコン需要が軟化していることで、半導体市場全体

も当初の成長期待を下回る水準で推移しました。一方で、スマートフォンやタブレット型端末などのモバイル機器市場は堅調な成長が続いており、それらに搭載される半導体の微細化や生産能力増強に向けた動きが、当期における半導体設備投資の牽引役となりました。

このような環境のもと、当社は、昨年のVerigy Ltd.(以下、旧Verigy社)買収により大きく広がった製品ポートフォリオを活用し、業績の伸長に努めました。特に、スマートフォンやタブレット型端末の基幹部品であるアプリケーション・プロセッサやベースバンド・プロセッサなど、テスト需要の拡大著しい分野における事業機会の獲得に注力しました。

以上の結果、受注高は715億円(前年同期比8.3%増)、売上高は726億円(同12.6%増)、営業利益は34億円、当期純利益は15億円となりました。

足元の経営環境につきましては、マクロ経済の先行きに対する警戒感とともに、今夏以降パソコンの販売不振が鮮明となった結果、新規の設備投資に対する慎重な姿勢が顧客各社に広がっています。この事業環境を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、売上高は1,400~1,600億円、営業利益は60~160億円としております。

しかし、半導体業界の先行きを展望すれば、スマートフォン市場やタブレット型端末市場の拡大が、モバイルコンピューティングに関わる半導体のさらなる高度化や生産量増加を促すという基調は、当面維持されるものと見込まれます。そうした先端的半導体市場の成長に支えられ、半導体テスト市場も年明け以降再び好転すると期待されます。

このような環境のもと、当社は、成長分野での顧客拡大やシェア拡大を通じた業績の伸長に、今後も努めてまいり

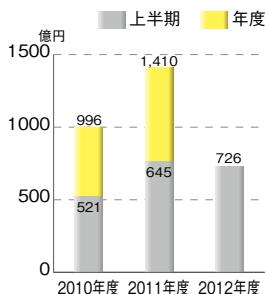
ます。また、中期経営目標の達成を目指す中で重要と位置づける新規事業の拡大についても、クラウド・テストング・サービス事業を管掌する関係子会社の設立などを通じ、たゆまず取り組んでまいります。

株主の皆様への中間配当金につきましては、1株につき10円とし、本年12月3日を支払開始日とすることを2012年10月25日の取締役会において決議いたしました。

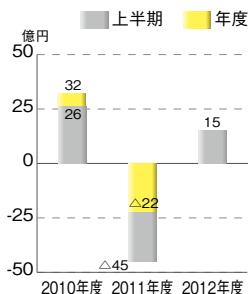
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2012年11月

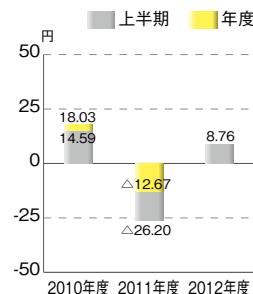
売上高(連結)



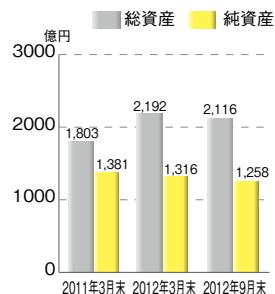
当期純利益(連結)



1株当たり当社株主に帰属する
当期純利益(連結)



総資産・純資産(連結)



■ ワールド・ワイドに進む統合

当社は、今後のイノベーションを生み出す源泉として、2011年に買収した旧Verigy社との完全事業統合および両社の企業文化の融合“Advantest Culture Transformation”を最重要経営課題と位置付けており、この“Advantest Culture Transformation”の頭文字と「行動する」という英単語を掛け合わせて名付けた全社運動「ACT2014」を、当2012年度より推進しています。

この「ACT2014」運動では、中長期にわたる持続的成長に向けた経営目標として、

- 売上高2,500億円
- 営業利益率20%以上
- テスタ・ハンドラの合計市場シェア50%以上

の3つを定めるとともに、全社を挙げてこれらの2014年度での達成に向けて邁進しています。



2014年度での達成目標

売上高

2,500億円

営業利益率

20%以上

テスタ・ハンドラの合計シェア

50%以上

この経営目標達成のため、当社は2012年8月に事業部制の改組を行いました。これにより、新製品の開発スピードと経営資源配分の機動性がグローバルに一層強化されます。また、世界各国の当社と旧Verigy社の事業拠点を順次集約しており、当年度中に完了する予定です。先に導入したグローバル統一人事制度とあいまって、全社の業務効率がより一層向上するものと期待しています。

VLSIリサーチ社 顧客満足度調査「THE BEST 2012」 試験装置分野で第1位を獲得



この調査には、世界半導体市場における99%の製造装置ユーザが参加し、製造装置メーカーを評価・格付けしています。当社は、試験装置分野の第1位を獲得するとともに、大手半導体製造装置メーカーの中で顧客満足度の高い上位10社を選出する「10 BEST」でも第2位となり、24年連続で選出されました。

躍進するSoC向けテスト



V93000



T2000

2012年度上半期は、スマートフォンやタブレット型端末等のモバイル機器市場が成長し、またハイブリッド/電気自動車等で使用されるパワーデバイスの需要も増えており、これら各種デバイス向けのSoCテストの受注・売上が好調に推移しました。

「CloudTesting™ Service」の提供開始

半導体テストは、高性能・高機能化による生産性向上が進められてきましたが、その結果、大型テストが主流となっています。一方、半導体デバイス設計専門のデザインハウスや大学・教育機関では予算面から大型テストの購入が難しく、同様に大手メーカーでも「個人専用のテストが欲しい」という要望があり、手軽な小型テストが求められています。

このようなニーズに応えるため、Cloud Testing Service社を設立し、クラウドコンピューティングを応用した「使いたい時に、使いたい物を、使いたい分だけ購入する」、業界初のオンデマンド型テスト・ソリューションを提供いたします。



お客様



サイズ：11cm(W)×20cm(H)×40cm(L)

※意匠登録出願中

新開発の小型テスト端末(貸与品)

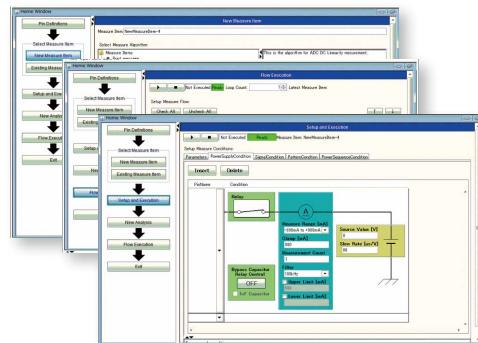
CloudTesting™ Station CX100P

テストングIP購入サイト



※画面は、開発中のものです。

ソフトウェア環境



※画面は、開発中のものです。

光超音波イメージング・システムの試作機開発に成功



このシステムは、光音響効果を用いて非破壊で測定対象内部をリアルタイムに画像観察することができるものです。

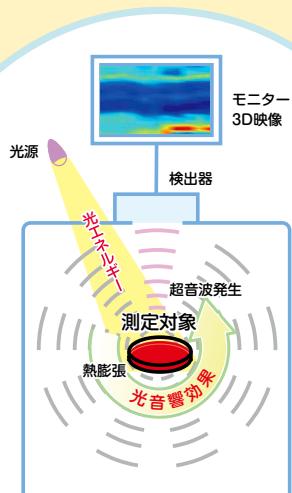
当社は、長年測定器事業で培った技術を活用して、理科学機器分野、ヘルスケア分野にも展開することを目指しております。このシステムで将来皮膚疾患等の診断に貢献できるよう、今後も開発に取り組んでまいります。

※光音響効果:光のエネルギーを吸収した物質が超音波を発生する効果

※医療機器ではありません。

今後医療機器承認申請の準備を進めてまいります。

システムの原理



例えば、生物の血液中の赤血球に含まれる色素であるヘモグロビンは緑色の光を選択的に吸収するため、緑色の光を入射するとヘモグロビンだけが光音響効果により音響信号を発生します。そしてこの音響信号を画像化することで、ヘモグロビンを含む部分がどこにあるかを知ることができます。

連結財務諸表 [米国会計基準]

記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2011年度 (2012年3月末)	2012年度上半期 (2012年9月末)
〔資産の部〕		
流動資産	118,695	113,604
現金および現金同等物	58,218	51,000
売上債権(貸倒引当金控除後)	24,119	25,218
棚卸資産	29,836	31,027
その他の流動資産	6,522	6,359
投資有価証券	5,929	4,692
有形固定資産(純額)	34,206	37,144
無形資産(純額)	15,794	14,124
のれん	36,496	34,494
その他の資産	8,106	7,571
資産合計	219,226	211,629

科 目	2011年度 (2012年3月末)	2012年度上半期 (2012年9月末)
〔負債の部〕		
流動負債	60,372	34,014
買掛金	15,659	15,201
短期借入金	25,000	—
未払費用	12,068	9,940
製品保証引当金	2,129	2,094
前受金	2,228	2,523
その他の流動負債	3,288	4,256
社債	—	25,000
未払退職および年金費用	23,444	23,276
その他の固定負債	3,858	3,513
負債合計	87,674	85,803
契約債務および偶発債務		
〔資本の部〕		
資本金	32,363	32,363
資本剰余金	42,280	42,401
利益剰余金	179,081	178,297
その他の包括利益(△損失)累計額	△22,574	△28,585
自己株式	△99,598	△98,650
資本合計	131,552	125,826
負債および資本合計	219,226	211,629

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2011年度上半期	2012年度上半期
売上高	64,460	72,558
売上原価	34,199	34,498
売上総利益	30,261	38,060
研究開発費	13,824	16,674
販売費および一般管理費	18,720	18,017
営業利益(△損失)	△2,283	3,369
その他収益(△その他費用)	△2,390	△252
税引前当期純利益(△損失)	△4,673	3,117
法人税等	△169	1,628
持分法投資利益(△損失)	△35	30
当期純利益(△損失)	△4,539	1,519

セグメント別売上高

(単位：百万円)

科 目	2011年度上半期	2012年度上半期
半導体・部品テストシステム事業	49,702	56,438
メカトロニクス関連事業	10,075	8,174
サービス他	7,755	9,651
内部取引消去	△3,072	△1,705
合計	64,460	72,558

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

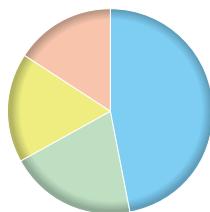
(単位：百万円)

区 分	2011年度上半期	2012年度上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,193	2,396
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,949	△6,077
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,443	△1,520
現金および現金同等物に係る換算差額	△4,472	△2,017
現金および現金同等物の純増減額(△減少)	△10,785	△7,218
現金および現金同等物の期首残高	75,323	58,218
現金および現金同等物の当期末残高	64,538	51,000

■ 株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数……………440,000,000 株
 発行済株式の総数……………199,566,770 株
 株主数……………49,645 名

●所有者別株式数分布状況



金融機関・証券会社	98名	94,169千株 (47.2%)
外国人	405名	40,012千株 (20.0%)
個人・その他	48,732名	34,276千株 (17.2%)
その他の法人・自己株式	410名	31,110千株 (15.6%)

■ 大株主 (2012年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	21,094	12.16
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 富士通口		
再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	20,143	11.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,099	7.55
J P モ ル ガ ン 証 券 株 式 会 社	4,866	2.80
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,678	2.70
ソニエテージェネラルセキュリティーズノースパンフィックリミテッド	3,918	2.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	3,619	2.09
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	3,570	2.06
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	3,045	1.76
み ず ほ 証 券 株 式 会 社	2,623	1.51

- (注) 1. 持株比率は、自己株式(26,045千株)を控除して計算しています。
2. みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 富士通口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式数20,143千株は、富士通株式会社が所有していた当社株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については富士通株式会社の指図により行使されることとなっております。
3. 「株券等の大量保有の状況に関する開示」制度に基づき、2012年8月6日付で提出された変更報告書により、三井住友信託銀行株式会社他2社が2012年7月31日現在15,770千株を共同保有している旨、2012年4月20日付で提出された変更報告書により、野村證券株式会社他5社が2012年4月13日現在10,074千株を共同保有している旨、2011年12月19日付で提出された変更報告書により、株式会社三菱東京UFJ銀行他4社が2011年12月12日現在16,241千株を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社として実質所有株式数の確認ができない部分については上記表に含めておりません。

●取締役および監査役

代表取締役会長	丸山利雄
代表取締役	松野晴夫
取締役	秋草直之
取締役	萩尾保繁
取締役	唐津治夢
取締役	黒江真一郎
取締役	明世範 <small>(ミヨン セボン)</small>
取締役	中村弘志
常勤監査役	栗田優一
常勤監査役	畠山彰
監査役	山室惠
監査役	小倉正

●執行役員

執行役員社長 (CEO)	松野晴夫
常務執行役員	黒江真一郎
常務執行役員	明世範
常務執行役員	中村弘志
常務執行役員	吉田芳明
常務執行役員	清水雅男
常務執行役員	今田英明
執行役員	川田保博
執行役員	杉浦孝隆
執行役員	塚越聡一
執行役員	Josef Schraetzenstaller <small>(ヨゼフ シュレツェンスタラー)</small>
執行役員	R. Keith Lee <small>(R キース リー)</small>
執行役員	中原真人
執行役員	岡安俊幸
執行役員	Hans-Juergen Wagner <small>(ハンス ユルガン ワグナー)</small>
執行役員	Yih-Neng Lee <small>(イーネン リー)</small>
執行役員	CH Wu <small>(シーエイチ ウー)</small>
執行役員	山下和宏
執行役員	佐藤憲二

商号：株式会社アドバンテスト
ADVANTEST CORPORATION

本店：東京都練馬区旭町1丁目32番1号

本社事務所：〒100-0005
東京都千代田区丸の内1丁目6番2号
新丸の内センタービルディング
電話 03-3214-7500

設立：1954年12月2日

従業員：4,549名(連結)
(2012年9月30日現在) ※上記従業員には、派遣社員等を含んでおりません。

上場：東京証券取引所第1部(コード: 6857)
ニューヨーク証券取引所(Ticker Symbol: ATE)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL http://www.advantest.co.jp/investors/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、下記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-49-7009 (フリーダイヤル)

ADVANTEST®

株式会社 **アドバンテスト**

<http://www.advantest.co.jp>

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング
TEL : 03-3214-7500



環境に配慮し、再生紙と植物油インクを使用しています。